

第1学年2組 図画工作科学習指導案

日時 平成30年7月27日(金) 8:40~9:25

場所 図工室 指導者 中野 和幸

本授業のキーワード

材料の種類と量 場の工夫 言葉かけ 幼小連携の視点

1 題材名 木々とあそぼう (造形遊び)

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、線材としての木の枝や細長い木、面として平たく切った木、量感を感じる木の幹や丸太などを材料に、自分の感覚や気持ちを生かしながら、思い付いた活動を楽しむ造形遊びである。長さや太さの違う線材としての木々を大量に用意し、並べる、つなげるなどの活動を十分に味わえるようにする。平たく切った木や木の幹、丸太も用意することで、材料の形や太さ、手触り、量感の違いから、活動を思い付くことができる。自分なりの感じ方で材料を選んだり、並べ方やつなぎ方を工夫したりしながら、思い付いた活動を楽しみ、イメージを広げることができるであろう。また、進んで関わりながら木々と一体となるなど、体全体の感覚を働かせながら木々の世界に入り込んで活動を展開する楽しさを味わわせたい。材料、友達、場の雰囲気などと一体になり生き生きと活動し続けることで、児童はつくりだす喜びを味わい、このようにして身に付けた力は、今後の造形活動の重要な基礎となるであろう。

(2) 児童について

本学級の児童は、材料の形や色などから自分のイメージをもって造形活動を行うことができる。「ペットボトルキャップで遊ぼう」では、キャップを積み上げたり並べたりしながら、思い思いの活動を行った。活動終盤には、並んだキャップを迷路に見立てて、個人や友達で活動してできた形をつなぎ、学級全体でつながり一つの形となったことに、満足感や達成感を得ることができた。このように、自分が思い付いたイメージをのびのびと表したり、友達と一緒に活動を楽しんだりすることができている。本題材で用いる木々は自然の材料で、就学前に触れたり遊んだりした経験がある。しかし、これらを大量に用いて思い付いた活動を行うのは初めてであり、形や色が同じではない材料に、始めは戸惑いが見られる可能性がある。

(3) 指導について

そこで、始めは材料を絞り、線材としての木の枝や細長い木を中心に活動ができるようにする。図工室中央に山積みにした木の枝や細長い木をブルーシートで隠し、興味をもつように演出して、木々と出合わせる。その後は、自分の感覚や気持ちを生かしながら思い思いに造形遊びをすることができるように、教師は児童の活動を見守り、気持ちを汲み取りながら称賛したり励ましたりして、児童の造形活動への意欲を高める。そして、木々の特徴から思い付いた造形活動に向かうように、材料がたくさんあることを示唆したり新たな提案をしたりする。その際、指示的になり過ぎて児童の発想を狭めないように、児童の造形活動に寄り添った言葉かけや、活動が自然と広がるように、児童同士をつなぐ言葉かけを行う。場の設定では、木々から思い付いた活動が展開できるように机や椅子を片付け、広い空間にしておく。また、平たく切った木や木の幹、丸太など木々を、児童が気づいて活動に用いることができるように、活動場所に準備しておく。終末では、活動を楽しんで振り返ることができるように、木々が広がった図工室内の様子を見るとともに、児童のつぶやきから活動のよさや楽しさ、工夫についての発言を拾い上げて称賛し、価値付けを行うことで、満足感や達成感を高めたい。

3 題材の目標

木の枝や細長い木などを、自分の感覚や気持ちを生かしながら、思い付いた造形活動を楽しむことができるようにする。

4 題材の評価規準

- ア 自分の感覚や気持ちを生かしながら、木々の並べ方やつなぎ方を工夫してつくっている。 【知識及び技能】
- イ 木々の特徴や手触りなどから造形的な活動を思い付いたり、自分の感覚や気持ちを生かした活動を考えたりしている。 【思考力・判断力・表現力等】
- ウ 木の枝や細長い木、平たく切った木、幹、丸太を使って、思い付いた造形活動に楽しんで取り組もうとしている。 【学びに向かう力・人間性等】

5 本時の展開 (1 / 1 時間)

□ …教師の提案 ○ …児童の意識や活動 ◻ …主な言葉かけ



